

【工事概要】	
事業年度	平成 23 年度～ 24 年度
完成	平成 24 年 7 月 31 日
総事業費	16 億 2420 万 7900 円
敷地面積	32,647.98㎡
校舎棟	4,342.78㎡
体育館棟	843.72㎡

テープカット後、生徒代表の櫻井穂乃香さんと持木町長が校章の銘板下に学校名の書かれた看板を設置。



記念式典前に、正面玄関前でテープカット。生徒代表4人(右から水上佳彦君、張冬芝さん、赤塚僚君、大黒華林さん)と町長らが合図に合わせてハサミを入れた。



# 能都中学校が旧高津地に出校跡に 移転改築

大切なことは、新しい学校で生徒たちが何を学ぶか。  
自分たちで考え、行動する力を育てていきたい。



はまたか ひでじ  
濱高 秀治 校長

四明ヶ丘の旧校舎は、能都中の良いときも悪いときも見えてきた校舎。卒業した生徒たちにとっては思い出が詰まった大切な場所だと思います。コンクリートの無臭ではなく、木の匂いがする新しい校舎で2学期を迎えてから1カ月が経過します。生徒たちの適応は早く、今では普通に学校生活を送っています。9月15日には移転後初となる体育祭を開催しました。グラウンドが狭くなった分、生徒との距離が近く、生徒も観客も楽しむことができた体育祭となりました。

学校が新しくなったから良いのではなく、この学校で生徒たちが何を学び、どう成長するか大切です。生徒が自分たちで考え、責任を持って行動する「自治」の力を育てていきたいと考えています。地域の皆さまには、これまで以上に能都中に興味をもっていただき、新しい学校や生徒の様子を見て、意見をいただければと思っています。新校舎は拠点避難場所でもあります。いざというときにその役割を果たし、住民を守る学校であるために、訓練の実施も考えていきます。

平成23年度から移転改築工事が進められていた能都中学校が完成。8月28日に竣工記念式典が行われ、生徒・関係者らが新しい校舎の誕生を祝いました。

**豊** かなる鳳至の郷に 青雲の沸きたつところ―

竣工記念式典には、全校生徒のほか、保護者、学校関係者、工事関係者など約300人が出席。真新しい体育館に、伝統ある校歌が初めて響き渡りました。

持木一茂町長は「新しい校舎で勉強やスポーツにいそしみ、能都中の伝統のタスキをつなげてほしい」とあいさつ。新たな舞台で成長する生徒たちにエールを贈りました。

**新** 生能都中学校は、旧校舎（昭和40年3月建設）の老朽化を受けて、旧宇出津高校跡地に移設。日本海を望む眺望、自然と調和した外観、能登ヒバを多用した内装など、落ち着いた教育環境がつけられました。

さらに、拠点避難場所として高い耐震性と安全性を確保。エレベーターや多目的トイレも整備され、バリアフリーにも配慮されています。



【アトラクション】  
式典終了後、能都中学校プラスバンド部がステージで演奏。3曲を披露して新校舎完成のお祝いムードを盛り上げた。



【喜びの言葉】  
生徒会長の山本泰隆君が「生徒一人一人が能都中生としての誇りを持ち、勉強やスポーツに励みます」と感謝の言葉を伝えた。



【竣工記念式典】  
第一体育館で挙行された記念式典では、木下公司県教育長(代理)、山口彦衛県議会議員、久田良平町議会議員らが祝辞を述べた。